

「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10トライ」 取組状況アンケート集計概要

(回答状況)

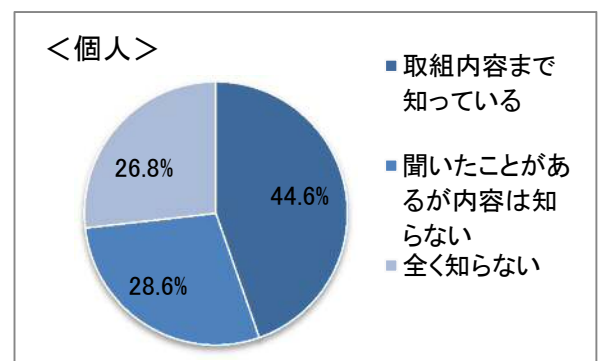
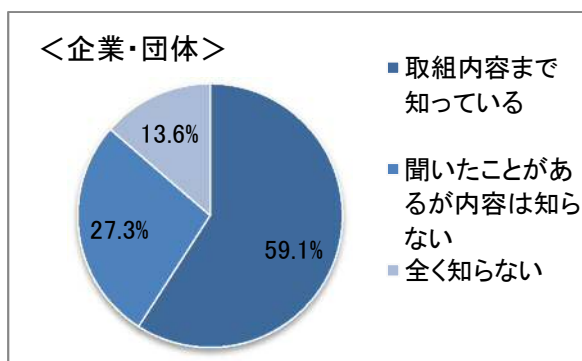
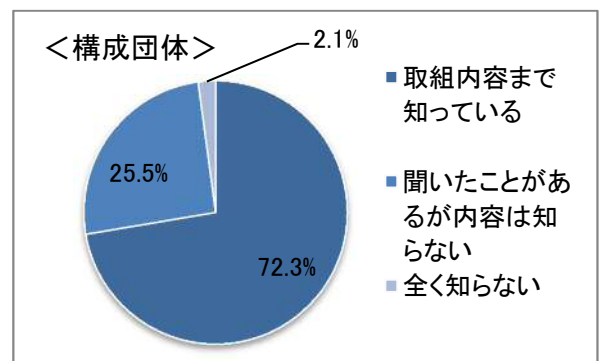
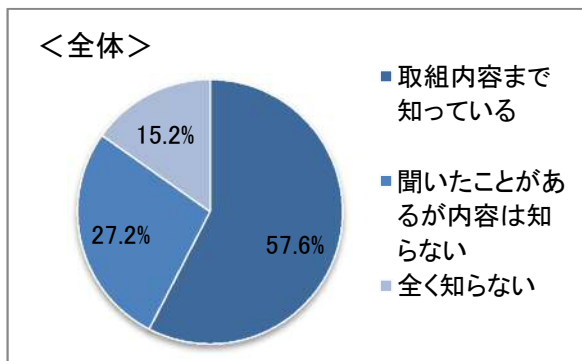
回答者	回答数	総数
構成団体	47 団体 (44.7%)	105 団体
県民部会	19 団体 (38.0%)	50 団体
企業部会	11 団体 (57.8%)	19 団体
行政部会	17 団体 (47.2%)	36 団体
企業・団体	22 団体・企業	—
個人	56 人	—
合計	125 (団体・人)	—

1 「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10トライ」について

(1) 「エコ10トライ」の認知度

「エコ10トライ」を知っているか尋ねたところ、全体として「1 取組内容まで知っている」は57.6%、「2 聞いたことがあるが内容は知らない」は27.2%、「3 全く知らない」は15.2%であった。

なお、内訳は次のとおり。



(2) エコ10トライの取組状況

各行動宣言別の内訳は次の表のとおり。

分野	行動宣言の項目	関心がある (取り組んでいない)			取り組んでいる		
		構成団体	企業・ 団体	個人	構成団体	企業・ 団体	個人
① エネルギー	行動宣言1 再生可能エネルギーの利用や省エネルギーの取組を拡大します	10 (21.3%)	0 (0.0%)	18 (32.1%)	33 (70.2%)	21 (95.5%)	35 (62.5%)
② ごみ (廃棄物)	行動宣言2 3Rの取組を拡大します	8 (17.0%)	0 (0.0%)	9 (16.1%)	34 (72.3%)	21 (95.5%)	45 (80.4%)
	行動宣言3 廃棄物の適正処理を徹底します	4 (8.5%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	39 (83.0%)	19 (86.4%)	53 (94.6%)
③ そら (空)	行動宣言4 きれいな空気と星空をつくりま す	9 (19.1%)	5 (22.7%)	11 (19.6%)	29 (61.7%)	13 (59.1%)	38 (67.9%)
④ みず (水)	行動宣言5 将来にわたってきれいで豊かな水を確保します	13 (27.7%)	5 (22.7%)	7 (12.5%)	27 (57.4%)	13 (59.1%)	43 (76.8%)
⑤ みど り・つち (緑・ 土)	行動宣言6 里地里山、森林、水辺の豊かな自然を守る取組を拡大します	13 (27.7%)	2 (9.1%)	23 (41.1%)	23 (48.9%)	16 (72.7%)	23 (41.1%)
	行動宣言7 農林水産業への理解を深め、地産地消の取組を拡大します	11 (23.4%)	6 (27.3%)	15 (26.8%)	24 (51.1%)	12 (54.5%)	31 (55.4%)
⑥ まちづ くり	行動宣言8 みんなが参加して環境と共生するまちをつくりま す	13 (27.7%)	3 (13.6%)	21 (37.5%)	23 (48.9%)	16 (72.7%)	31 (55.4%)
⑦ ライフ スタイル	行動宣言9 環境に配慮したライフスタイルや事業活動を拡大しま す	8 (17.0%)	3 (13.6%)	14 (25.0%)	31 (66.0%)	18 (81.8%)	35 (62.5%)
⑧ 学び	行動宣言10 環境への関心を高め、学び、行動する人を増やしま す	12 (25.5%)	0 (0.0%)	13 (23.2%)	27 (57.4%)	21 (95.5%)	34 (60.7%)

(3) 「関心がある」分野に関して、その理由や取り組むにあたっての課題等

「関心がある（取り組んでいない）」分野に関して、その理由や取り組むにあたっての課題等を自由回答で尋ねたところ、37件の回答をいただいた。自由回答の一部抜粋は次のとおり。

構成団体

- ・環境問題だけに取り組んでいるわけではないので、継続的な取組は難しい。
- ・限られた予算と人員で行われなければならない、より効果的な実施が求められている。
- ・エコ 10 トライ全般のテーマに賛同し、関心を寄せているが、効果的な取組を実施しているか不安がある。

企業・団体

- ・できることから取組を初めて、少しずつ広げていくように進めているが、課題は金銭面と費用対効果である。
- ・関心がある（が取り組んでいない）と回答した項目は、すべて「見える化」が弱くアクションが起こしにくい。
- ・本来業務と深い関連が見いだせない、積極的に取り組んでいくことが難しい。

(4) 「取り組んでいる」分野に関して、その理由や取組の効果、意識の変化等

「取り組んでいる」分野に関して、その理由や取組の効果、意識の変化等を自由回答で尋ねたところ、96件の回答をいただいた。自由回答の一部抜粋は次のとおり。

構成団体

- ・施設投資予算が安全・安心項目に優先配分されるため、LED化の推進がやや遅いが、従業員の消灯等の意識は高い。
- ・独自の環境マネジメントシステムを定め、環境負荷の軽減や自然環境の保全等に取り組んでいる。組織全体で取り組むことにより、各スタッフについても環境に対して、高い意識をもって仕事を行うようになった。

企業・団体

- ・各分野に取り組むことで環境への意識が変化するだけでなく、行動としてエコ配慮商品の購入につながるなど、なにかしらのアクションに踏み込んだ方もいた。そのため、啓発と同時にアウトプットにできる手法等を用意しておく必要性を感じた。
- ・SDGsの活動に企業として計画に落とし込んで取り組んでいる。行動宣言がほぼ似ているのでともに活動できるものである。できるところから始める、行動するのが大事だと思う。

個人

- ・単なる宣伝ではなく、効果が見えるような具体的な行動に対するヒントや手法を紹介し、広めてゆく活動も必要と思う。
- ・環境省のクールチョイスは頑張って集めていたが、神奈川県のエコトライは身近ではなかった。一見子供向けのような感じを受けた。

- ・10項目のうち半数は、関心はあるが日常生活の中で常に取り組むことは難しいように感じている。例えば、地産地消や環境負荷の少ない物品の購入はその価格に左右されることが多々あると思う。

(5) 取り組みが困難である理由

取り組む予定がない分野に関して、その理由を尋ねたところ、次のとおり回答をいただいた。

構成団体【主な意見】

- ・人員・金銭面で対応できない。
- ・優先順位が低い。
- ・団体の性質上、取り組む事が難しい。
- ・大切な分野ではあるが、広範囲に取り組むことで活動自体が不明瞭になる。

企業・団体【主な意見】

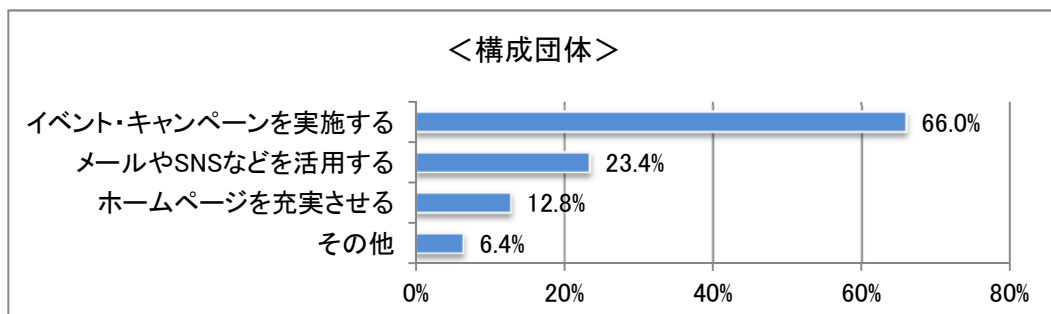
- ・人員・金銭面で対応できない。
- ・優先順位が低い。
- ・当会の活動テーマに含まれない項目である。個々の会員が当会の活動外で取り組むことは妨げていないが、状況を把握していない。

個人【主な意見】

- ・日頃の生活の中で関係する場面がない。
- ・優先順位が低い（日常業務が優先になる）。
- ・関心はあるが積極的な活動はしていない。

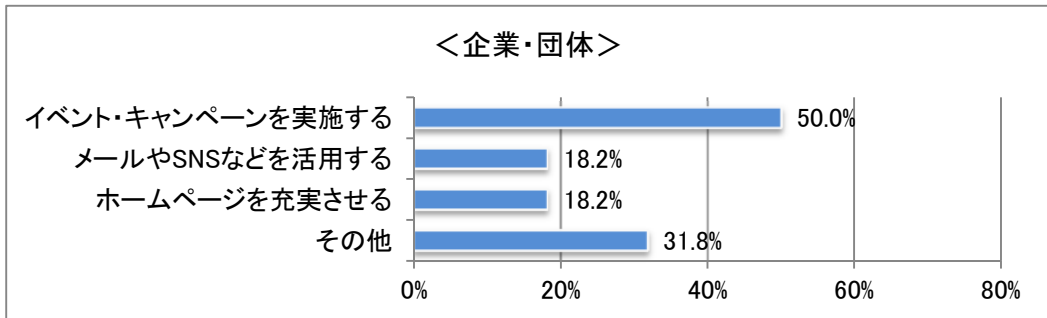
(6) 「エコ 10 トライ」を広める方法

どのような方法であれば、多くの方に「エコ 10 トライ」を広めることができるかアイデアを求めたところ、「イベント・キャンペーンを実施する」が最も多く、構成団体 66.0%、企業・団体 50.0%、個人 44.6%であった。



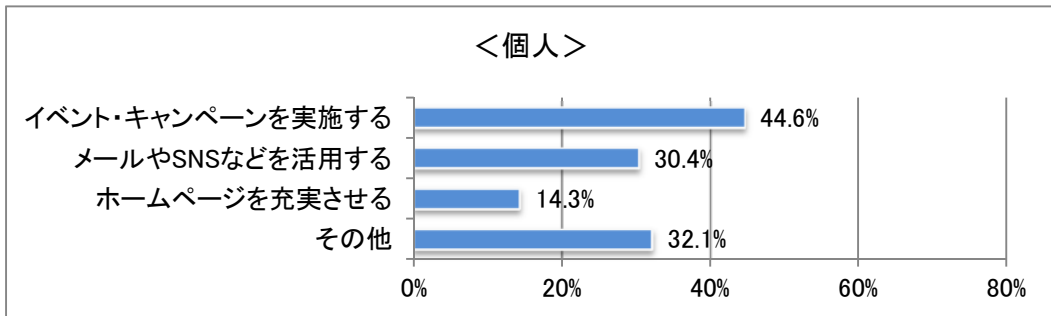
【その他（一部抜粋）】

- ・団体やグループへの出張説明を行う。
- ・具体的にHPだけではなく、テレビや新聞記事等普段関心のない人でも耳にする機会を増やす。現在のままでは関心のある人が自発的に動かないと情報を手に入れない。



【その他（一部抜粋）】

- ・スマホアプリでの告知を行う。
- ・子どもから大人へ流れを変える。小学校へのアプローチを行う。
- ・SDGs 推進に向けた取り組み強化のため、参加企業の取り組み状況によるSDGs の進捗の可視化を行うのはどうか。「なぜ登録をするのか」にしっかりとした意義を持たせることで、参加のモチベーションが向上すると思う。



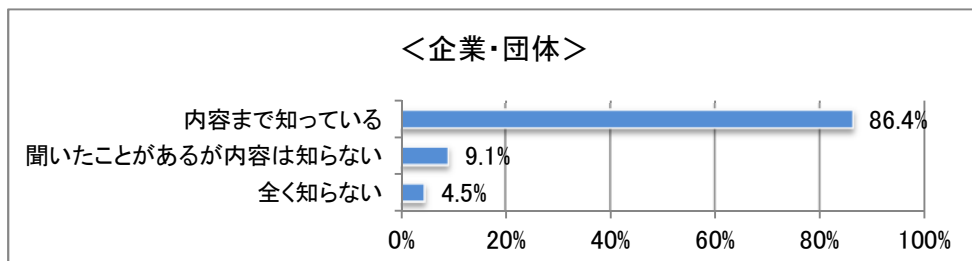
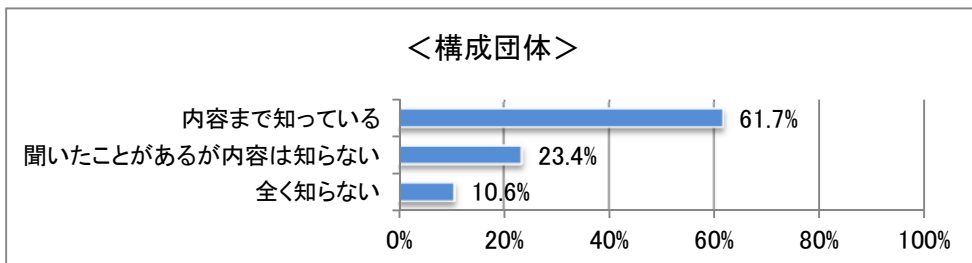
【その他（一部抜粋）】

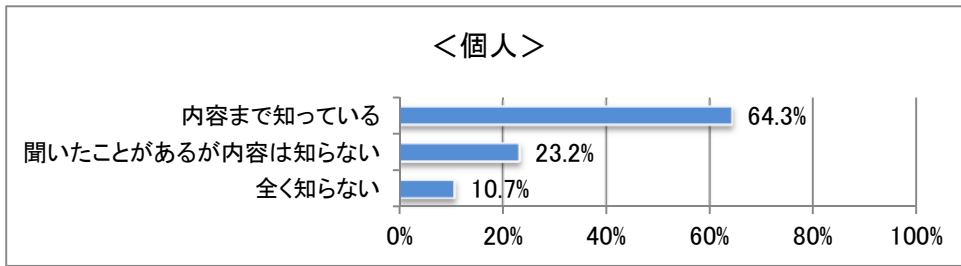
- ・積極的事業所や個人を表彰する。
- ・各種市民活動団体の集まりで依頼する。
- ・パンフレット等を市町村広報誌と同時配布を行う。

2 「SDGs（持続可能な開発目標）」について

(1) 「SDGs」の認知度

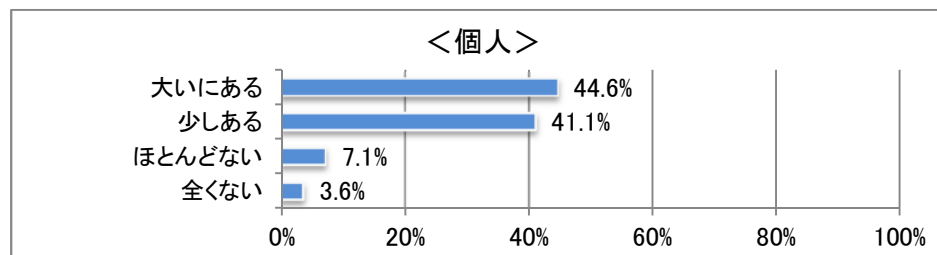
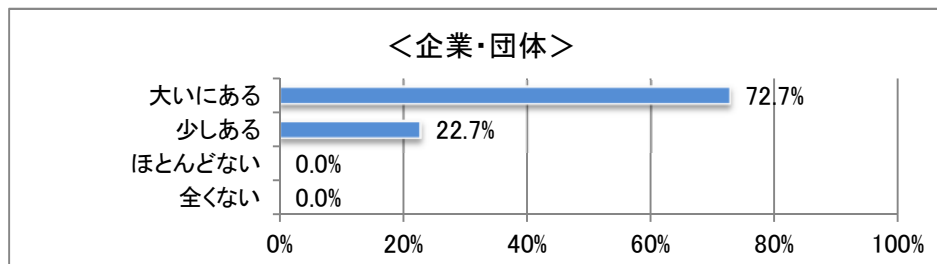
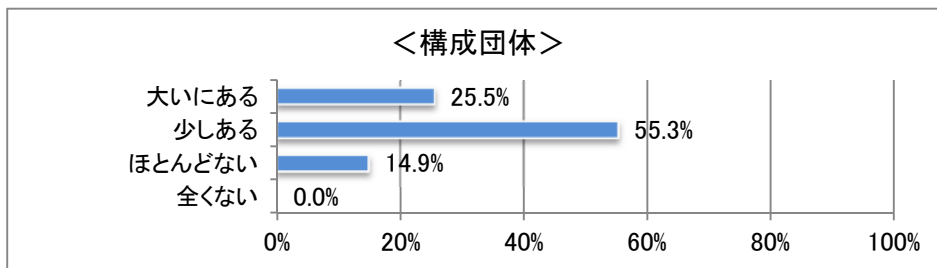
「SDGs」を知っているか尋ねたところ、「内容まで知っている」は、構成団体では61.7%、企業・団体は86.4%、個人は64.3%であった。





(2) 「SDGs」勉強会等への関心度

「SDGs」をテーマにした勉強会等の取組がある場合、関心があるか尋ねたところ、次のとおり回答があった。「SDGs」勉強会等への関心は構成団体、企業・団体、個人ともに「大いにある」「少しある」を合わせて80%を超える結果となった。



3 その他意見（個人：一部抜粋）

- ・環境保全について多くの皆さんに関心を持っていただくことは大切だが、必ずしも大多数の人が関心を持たなくても環境保全が進むような方策を考える方が良いのではないかと考える。
- ・SDGsについてのPRが不足していると思う。推進員のメンバーでもSDGsが何の略称かが理解されていないのが現実である。
- ・環境取組は、「節約や環境に良い」という理解より、習慣化することが大切と思う。SDGsは、あまりにも多岐にわたり総花的の印象がある。
- ・環境意識啓蒙活動の一環としてこのようなアンケートは大変役立つと思う。子供への啓蒙を充実させ、子供が親に教え、親も一緒に学び合う事ができるような社会に

なれば、環境改善の速度が速まるのではないかと思う。

- 「エコ10トライ」が温暖化防止への効果が、何か数値で見えると良い。異常気象での災害の発生頻度が多くなっているということも、（数値化によって）肌で感じることができる。
- エコ10トライと似たような取り組みはあちこちの自治体で行われているので、覚えきれない。内容についてもエコを意識しなくても自然にやっていることが大半なので余計にそう感じる。神奈川県は特に川崎市と横浜市の活動が大きなものなので、両方が取り組んでいないような隙間的な活動やアイデアを期待している。
- エコ10トライの取組をもっともっと広めてほしいと思う。